

日本女子大学における 質保証と質向上に向けた取り組み

日本女子大学 学長 篠原 聰子

12月23日（火）中央教育審議会大学分科会 質向上・質保証システム部会

- 
1. はじめに
 2. 質保証の基本方針
 3. 日本女子大学における内部質保証に関する体制図
 4. 質向上に向けた取り組み
 5. 実施組織・特徴的な取り組み
 6. 質向上に向けた取り組みの成果
 7. 学修成果可視化の具体的な取り組み
 8. 入学から卒業までの流れ
 9. 今後の展望

はじめに

本学では 「私が動く、世界がひらく。」 のタグラインのもと、

「自ら学び、自ら行動し、新しい価値を創造できる人材」 を育成している。

日本女性にとって“初”の組織的な高等教育機関（大学）

1901（明治34）年、政界・財界・教育界からの大きな支援を得て「日本女子大学校」創立以来、多くの卒業生を輩出していました。



創立者 成瀬 仁蔵



明治の女性実業家
広岡 浅子



日本の資本主義の父
渋沢 栄一

« 成瀬仁蔵に協力した人々 »



信念徹底…自らの人格を高め、使命を見出し、
全身全靈を尽くして前進する
自発創生…各自の創造能力の尊重と開発に努める
共同奉仕…より良い社会をつくるための連帯感と協調を図る

▲成瀬仁蔵の教育理念「三綱領」

本学の概要

- **7学部16学科、6研究科17専攻**を有する女子の総合大学
- 文系、理系の学部を複数有し、文理融合の取り組みに力を入れている

- 学部在籍者数**6,194**名 大学院在籍者数**299**名
- 専任教員 **257**名 専任職員 **164**名
(2025年5月1日現在)

学部

家政学部
•児童学科
•食物学科（※）
•住居学科（※）
•被服学科
•家政経済学科

文学部
•日本文学科
•英文学科
•史学科

人間社会学部
•現代社会学科
•社会福祉学科
•教育学科
•心理学科
•文化学科（※）

国際文化学部
•国際文化学科

理学部
•数物情報科学科
•化学生命科学科

建築デザイン学部
•建築デザイン学科

食科学部
•食科学科
•栄養学科

（※）は募集停止の学科

文理融合の学び（事例）

他学科や企業との共同研究

建築デザイン学科×化学生命科学科

被服学科×家政経済学科×企業



PROJECT01

建築デザイン学科
×化学生命科学科

日本の伝統建材「土壁」を
科学的アプローチで紐解き
再興を目指す。



PROJECT03

被服学科×家政経済学科
×山梨ハタオリ産地

布の価値を「見える化」
することで、ファッショングの
世界における持続可能性の
課題へ文理融合で挑む。

複数学科合同の卒業論文・卒業研究・卒業制作発表会

住居学科・史学科・心理学科の学生が参加



住居学科 × 史学科 × 心理学科

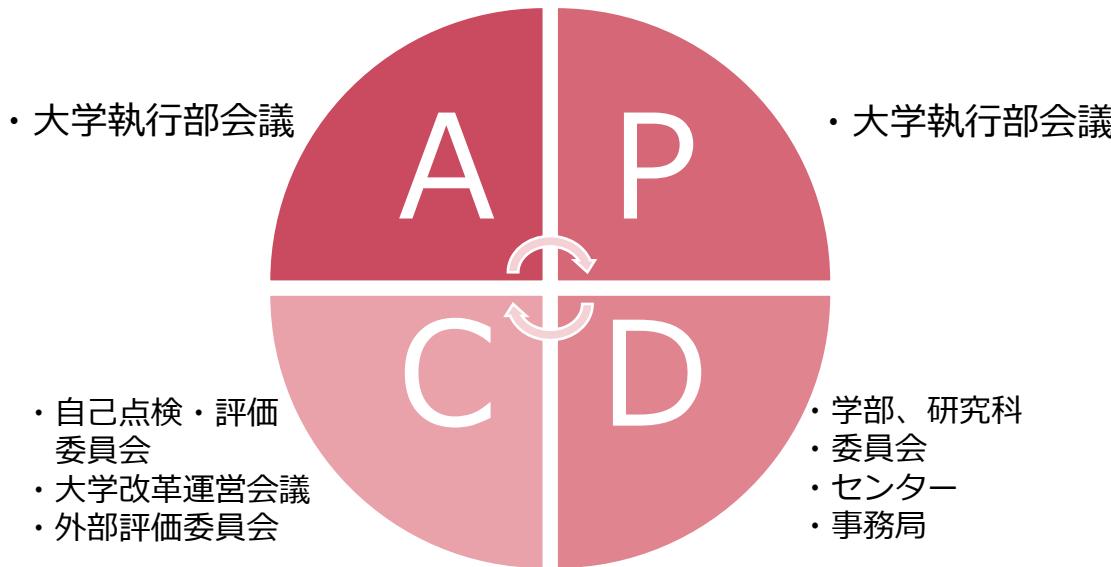


2025年3月1日（土） | 10:00～13:00

日本女子大学 目白キャンパス 青蘭館

質保証の基本方針

- ・教学部門の意思決定機関として学長を議長とする大学執行部会議を置き、学長を中心とした内部質保証体制を構築している。
- ・全学的な内部質保証は自己点検・評価委員会が主体となり、教員・職員で構成される全7部門に分かれて自己点検・評価を行い、学長に改善事項等を報告する。



質保証体制の特徴

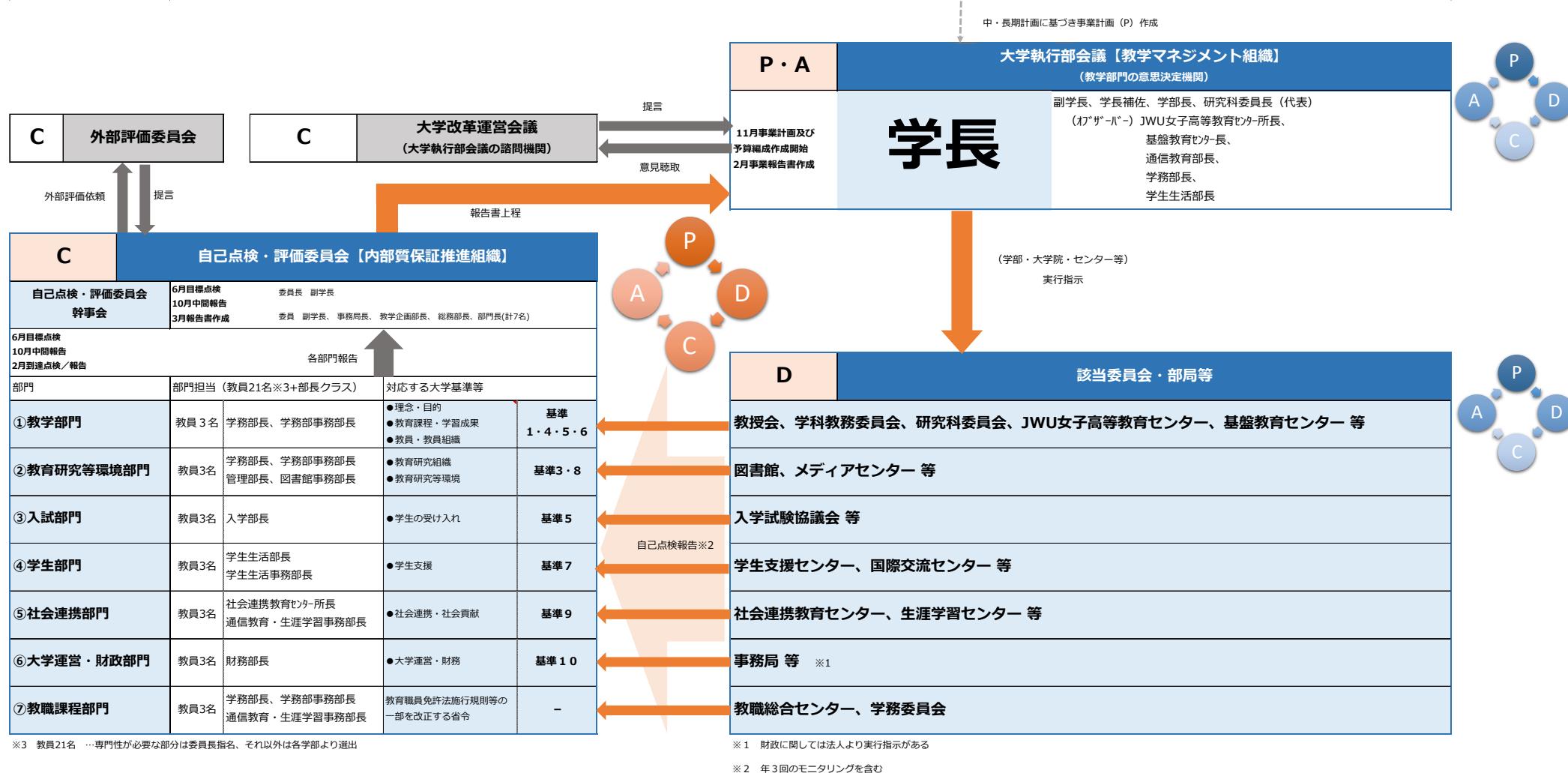
- ・**学長を中心とした**内部質保証体制
- ・**諮問機関**として大学改革運営会議設置
- ・**教職協働**による全学自己点検、評価
- ・学部、研究科ごとの**PDCAサイクル**
- ・JWU女子高等教育センターが中心となり
学修成果の可視化を推進
- ・**外部評価**の導入

これらを組み合わせ、教育の妥当性と改善の方向性を継続的に検証する体制を整えている。

日本女子大学における内部質保証に関する体制図

理念・目的	建学の精神
	三綱領（信念徹底・自発創生・共同奉仕）
	3つのポリシー／人材養成・教育研究上の目的に関する規程

中期計画（2024～2030年度）



質向上に向けた取り組み

1. 授業改善サイクルの強化

- ・「日本女子大学教育賞」制度実施
- ・優れた授業改善事例をFDセミナーで共有(★ 次のスライドで紹介)
- ・授業アンケート結果を学科やカリキュラム所管委員会等へフィードバック
- ・授業改善を図る制度的取り組み (★ 次のスライドで紹介)
- ・学科DP達成度のルーブリック評価 (★ 次のスライドで紹介)

2. 教員の教育力の向上

- ・全ての新任専任教員着任時にJWU女子高等教育センター所長による研修を実施
- ・高等教育をテーマとしたFD研修実施
- ・専任教員による対話型交流会「エデュcafé」実施

3. 学生の意見を取り入れる仕組み、学生支援

- ・「学長と学生の意見交換会」実施
- ・全学科全学年に対してアドバイザー教員を配置
- ・授業外学修を促進するラーニングコモンズをはじめとする学生滞在スペースの拡充



▲日本女子大学教育賞授賞式



▲対話型交流会「エデュcafé」



▲学長と学生の意見交換会

実施組織・特徴的な取り組み

- 全学的な教育改革の推進、教育の質向上に寄与することを目的としてJWU女子高等教育センターを置き、学修成果の可視化・把握、FD・SDの推進、全学的な教育改善等を実施する。

★優れた授業改善事例をFDセミナーで共有

- 学生の満足度が高く、特に優れた授業を実施した教員に「日本女子大学教育賞」を授与し、受賞者による優れた授業改善事例を全教員参加必須のFDセミナーで共有

★授業改善を図る制度的取り組み

- 授業アンケートの自由記述欄に記載された授業改善を要するコメントをまとめ、**非常勤を含む全教員へ共有**
- 授業改善を要望するコメントが記載された教員と個別に面談**し、改善に向けた支援を実施

★ループリック評価（2026～）

- 全学生必修**の卒業論文等及びゼミを**アセスメント科目**として位置づけ、卒業時に卒論指導教員が**学科DP達成度を評価**

2026年度から導入！
学科 DP 達成度 の
ループリック評価について

学科 DP (=学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)) ってなに？
学科ごとに卒業までに身につけるべき力を定めたものです。

ループリックってなに？
ループリックとは、「評価の基準をわかりやすく示した表」のことです。
4年間の集大成として、卒論等を指導する教員が、卒業までに身につけるべき力をどれくらい達成できたかを総合的に評価します。

いつどのように評価されるの？
卒業時 卒論等を指導する教員が評価し JASMINE-Navi で評価を返却します。評価は学生本人と教員のみに公開されますので、安心してください。

なぜループリック評価を導入するの？

評価の可視化
どこを目指せばよいか明確になります。

成果の確認
自分の強みや課題が具体的にわかります。

教員によるフィードバック
在学中の頑張りが客観的に評価されます。

主体的な学び
自己評価や目標設定に活用できます。

評価の対象科目は？

卒業論文、卒業研究、卒業制作
卒論等に付随する演習科目(ゼミ)
これらの活動をとおして、学科 DP に掲げる力がどのくらい身についたのかを評価します。

評価はいつ返却されるの？

卒業許可者の発表時に JASMINE-Navi 上で
卒業許可者ののみに返却されます（～3月20日）
卒業日（3月20日）を過ぎると閲覧できなくなりますのでご注意ください。

成績評価とは違うの？

成績評価と完全に一致するものではありません。
目的は「卒業までに身につけた力」を可視化。
今後は「成績評価」と区別されることです。

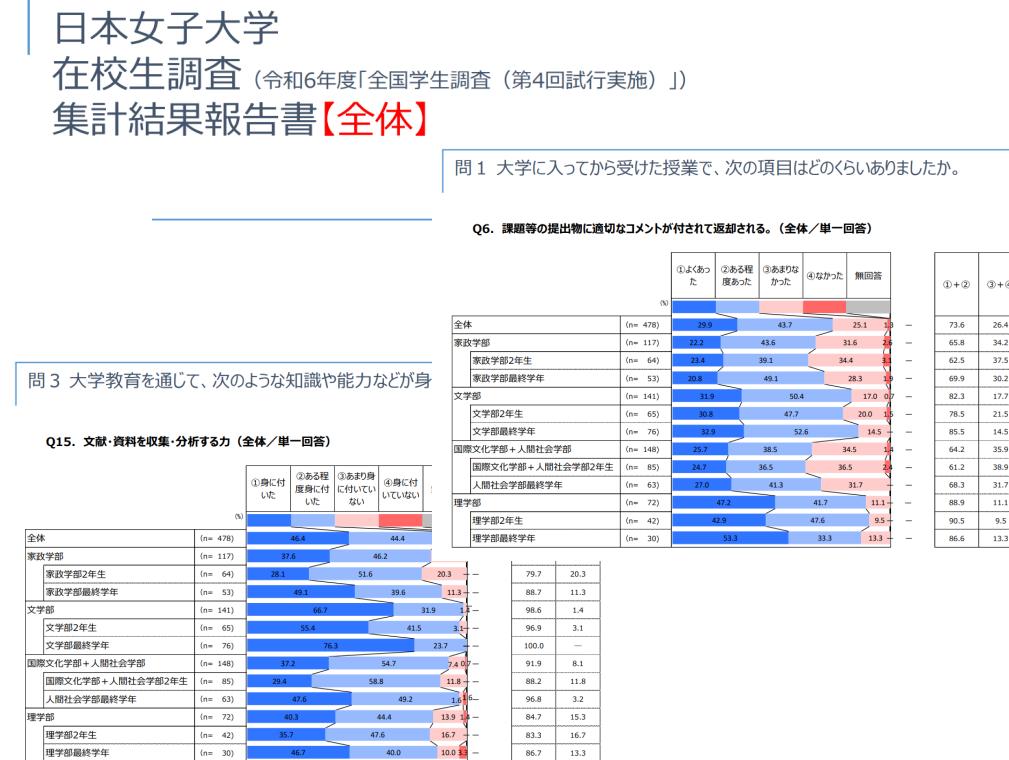
各学科のループリックは JASMINE-Navi トップページから確認できます
自分の学びを振り返り、次につなげるためにぜひ活用してください！

2026.4 日本女子大学 JWU 女子高等教育センター

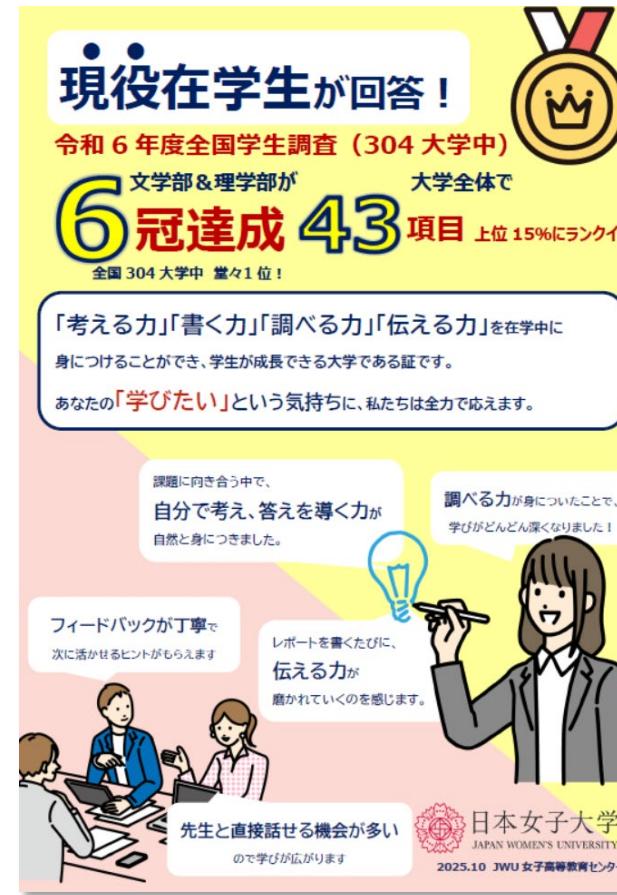
▲2026年度学生配付資料（予定）

質向上に向けた取り組みの成果

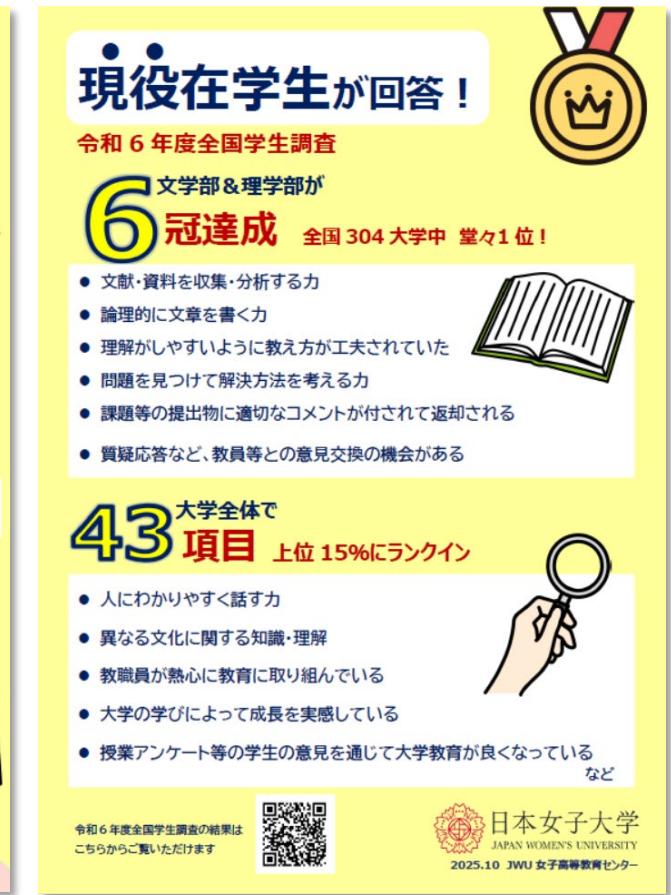
- 令和6年度全国学生調査ポジティブリストにて、文学部と理学部が計6項目で1位を獲得、計43項目で掲載
- 本学の少人数教育、授業改善の取り組みが学生にも評価された



▲集計結果は報告書にまとめ教職員に向けて公開



▲大学広報活動にも広く活用

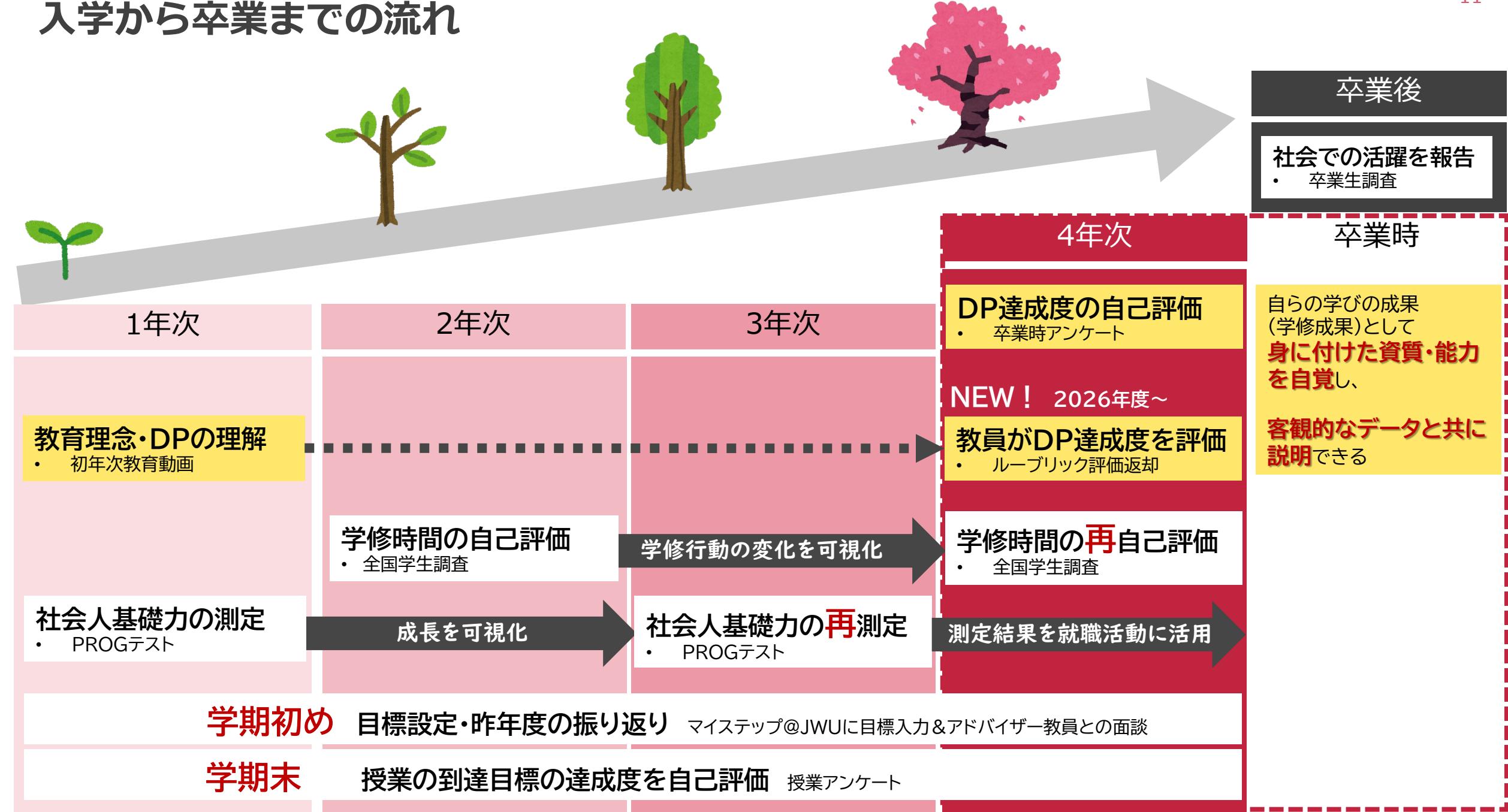


学修成果可視化の具体的な取り組み – 2026年度より –

実施時期	取り組み	目的
入学時	初年次教育動画の視聴	<ul style="list-style-type: none"> 入学後に学生が教育理念を理解し、DPに定められた在学中に身につけるべき力を確認できるようにする。
入学時 3年次	PROGテスト (アセスメント・テスト)	<ul style="list-style-type: none"> 学生自身が汎用的な能力・態度・志向等に関する現状を客観的に把握する。
2年次 4年次	全国学生調査	<ul style="list-style-type: none"> 大学が在学生の学修時間・学修行動を把握する。
毎年	マイステップ@JWU ⇒教員からのフィールドバック	<ul style="list-style-type: none"> 学生が年度ごとに目標を決め、その振り返りを学生自身が行う。 卒業時に自分が身につけた力を振り返る際の根拠として活用する。
毎学期	学生の達成度自己評価および授業改善のためのアンケート(授業アンケート)	<ul style="list-style-type: none"> 学生の自己評価による各科目の達成目標の達成度及び満足度を把握する。 授業の進め方や改善点に関する意見を集める。
卒業時	卒業時アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 学生の自己評価による学科DP及び基盤的科目群DPの達成度を把握する。
卒業時	アセスメント科目(※)のループリック評価 ※卒業論文、卒業研究、卒業制作、及び卒論等に付随するゼミをアセスメント科目とする。(2026年度より)	<ul style="list-style-type: none"> 教員、学生双方で学科DPの達成基準を認識し、評価内容を共有する。 学生自身が卒業時に身につけた具体的な力を説明できるようにする。
卒業後	卒業生のキャリア(就職・進学等)の状況の把握と教育活動等の改善のためのアンケート調査 (卒業生調査)	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後に在学中に受けた教育を振り返り、在学中に身につけた資質・能力がどのように役立っているか等を明らかにする。

▲2026年度「日本女子大学アセスメント・プラン」より一部抜粋

入学から卒業までの流れ



今後の展望

創立120周年（2021）を機に継続的な大学改革を実施

年度	実施内容
2021	キャンパス統合により目白キャンパスに全学部が集結
2022	理学部2学科（数物情報科学科、化学生命科学科）の名称変更
2023	国際文化学部開設
2024	建築デザイン学部、建築デザイン研究科開設
2025	食科学部開設
2026	文学部2学科（日本語日本文学科、歴史文化学科）の名称変更 JWUキャリアライフセンター新設
2027	経済学部（仮称）、食科学研究科（仮称）開設予定
2028	ファッションデザイン学部（仮称）、人間科学部（仮称）開設予定



これからも、学生が自ら未来を切り拓く力を育む教育を推進してまいります。